

# 会 誌



第 36 号

平成 12 年度

全国工業高等学校造船教育研究会



## 巻 頭 言

会 長 高 北 汎 恒

会員の皆様方には、平素から、工業教育の充実・発展に格別のご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、わが国の社会は、科学技術の高度化、情報化、国際化、少子高齢化等が進み、工業高校生を送り出す今日の産業界は、産業構造・就業構造が変化し、企業側の人材確保においても通年採用を取り入れるところが多くなり、加えて大学等の就職協定の廃止により、工業高校生の就職状況は、過去に例を見ないほど厳しさを増しています。出口の確保のため就職対策は、今まで以上に企業に出向き開拓する時代に変貌してきています。また教育に対する国民意識、教育を取り巻く環境が変化し、生涯をとおして学び続け、自ら進んで学習する意欲や態度、社会の変化に対応できる能力等、たくましく生きる力を育む教育を高校教育に強く求められています。このような現状の中で工業高校も好むと好まざるとにかかわらず、様々な改革に取り組み、特色ある学校、若者に夢と希望を与える学校、社会から強く期待される工業高校とすることが、私ども工業教育に携わる者に課せられた使命であり、果たす役割も重要であります。

三重県においては、21世紀の三重の教育のあるべき姿を明らかにするため「三重県教育振興ビジョン」が策定され、そのキーワードは、「豊かな心の教育」「個性と創造性の育成」「意欲と活力の育成」であります。昨年3月に新学習指導要領が告示され、理産振答申でされた今後の専門高校における教育の改善充実の視点「専門性の基礎基本の重視」「社会の変化や産業動向に適切に対応した教育の展開」「生徒一人一人の個性を育て伸ばす教育の展開」「地域や産業界とのパートナーシップの確立」「継続教育機関との連携の推進」「各学校の創意工夫を生かした教育の展開」等をふまえ、本校においても平成14年度からの完全週5日制を視野に入れながら、21世紀に活躍する工業高校生の育成のため新教育課程はどうあるべきか検討を重ねているところです。

造船科の環境は厳しく、魅力ある造船科として生き残り、船を愛し、未来の船を創造するロマンとやる気を持った職業人を育成する科として存続させるためにも、会員の英知を集め具体策を考えていただきたいと思います。全造教加盟の6校が活発な情報交換を行い、造船教育を一層魅力あるものにしていくことが、全造教に課せられた使命であると考え会員各位の協力を切にお願いする次第です。

最後に、本会を陰からささえてくださる業界各位に対し、深く感謝いたすとともに今後一層のお力添えをお願いいたします。

# 目次

① 巻頭言	会長 高北 汎 恒
② 目次	
③ 工業高等学校造船科の生徒のみなさんへ	
.....	大阪大学名誉教授 野本 謙 作 .....1
④ 本校における小型船舶の取り組みについて	
.....	高知県立須崎工業高等学校 .....3
⑤ 学校一覧	.....7
⑥ 全国工業高等学校造船教育研究会の歩み	.....9
⑦ 規 約	.....11
⑧ 会長賞についての表彰規定	.....12
⑨ 平成12年度役員	.....12
⑩ 企業紹介	.....13
⑪ 編集後記	.....29

# 工業高等学校造船科の生徒のみなさんへ

大阪大学名誉教授 野 本 謙 作

伊勢工高造船科の景山先生から造船科の生徒に何か話を書いてくれませんかと言われて、さて自分が君たちと同じ年には何をしていたらどうか、と考えました。

人間は一人ひとり顔が違うように、考え方もやり方もそれぞれちがいます。大切なことは自分の考え方、自分のやりかたを見つけること、言いかえれば自分が自分になることではないでしょうか。君たちの年齢は今ちょうどそれがだんだんと意識されてくる時期だと思えます。そのためには他の人の例も参考になるだろうと思ってそのころの私の話をしてみましょう。参考ですからその真似をするとかではなくて、なるほどそんなこともあるかとか、それはおかしい、自分ならそんなことはしないと考えて、自分のやり方を作って行くのに役立つのでは、と言うことです。

私はそのころ四国の愛媛県の小さな港町に住んでいました。まだそのころは角張った船型の和船に大きな帆を掛けたり、きれいな流線形の船体に焼玉エンジンを積み、船首には高いマストを立ててヨットのような帆をあげる機帆船などがしょっちゅう出入りしていました。子どものころから船大好きだった私は、ひまさえあれば港へ行ってそんな船を眺めたり、家では見よう見真似で模型を作ったりしていました。プラモデルや模型キットなどはどこにも売っていない時代ですから何もかも棒切れから自分で削り出すのです。手間はかかるし、そんなにスマートな模型ができるはずはありませんが。

あれは中3か高1のころでした。町はずれの小さな造船所で機帆船を建造中でした。たくさんの肋骨（フレーム）を大工たちがちょうなと言う道具を使って一本一本削りだします。出来上がるとみんなで力を合わせてそれをすでに据えてあるキール（竜骨）の上に立てます。何十本もの肋骨がこうして立ち並ぶと自然に船の形が浮かび上がります。見事なものでした。

さっそく模型で真似をしました。小さな模型だから肋骨は10本くらいでしたが。大工がしていたように肋骨の曲線を描き、それに合わせて肋骨を作りキールの上に固定しました。ところがある肋骨は外へ張り出しすぎだし、その次のはひっこみすぎと言う具合に肋骨の外面を結ぶ曲線（曲面）がでこぼこなのです。船体線図を習った諸君はそれは当たり前だと言って笑うと思いますが、初めに描いた肋骨の曲線がうまく描いたつもりでも実際には前後で関係づけられてないのがいけなかったのです。

そこまでは分かったのですが、それではこんなことにならないためには肋骨の曲線を描くときにどうすればよいのか。造船所の親方（棟梁、とうりょうと言います）に質問しました。彼は私がたびたびやってきて熱心に見ているのに好意をもってくれていたようで今晚家に来いと言ってくれました。

こうして私は船体線図の原理、フェアリングの方法からダイアゴナルラインの効用、さらにエンジンなしの帆船なら長さとの比は3余り、機帆船は4、汽船は5以上などという基本設計の根っこのところまで一晩で教えてもらったのです。その夜、棟梁にももらった機帆船の線図は今でも持っています。質の悪いトレーシングペーパーでぼろぼろになってしまいましたが。

そんなことをしているうちに大学の造船学科に進学し、結局造船の教授になりました。大学の先生をしているころはやはりそれが仕事ですから、一般船舶の運動力学とか操縦性能などの研究開発や学生にその考え方を伝授することにいっしょう懸命でした。しかし心の中では自分を造船の世界に引き入れてくれた草の根の船たち、いまではほとんど消えかけている、あの愛すべき船たちに関心と愛着を持ち続けていました。ですから現職を退いてからは自分のヨットに乗って日本中を一人旅をして、全国の津々浦々にわずかに残っているそれら草の根の船の資料を集め、書き残すことを終生の仕事にしています。ヨットのほうも先ほどの四国の港町で帆船乗りから帆やロープの扱いかたを習ってからですから、もうかれこれ60年になります。

昔の木造船の資料を集めるのに何もヨットで行かなくてもよいでしょうと言う人もいますが、それにはなかなか良いこともあります。第一、そんな船の船主さんや造船所でいまも資料が残っているのは大きな都会ではなくて、古い港町とか、離れ島などが多いのです。自分の船で行けば駐車場の心配も宿の手配もいりません。ここと思えば近くの漁港などに船をつないで、船のなかで自分で食事を作って暮らしながら、積んでいる組み立て自転車に乗ってあちらこちらと訪問して、昔の図面を写させてもらったりします。それにヨットに帆をあげて港へ入って行って、昔の帆船や機帆船のことを教えてもらいに来たというと、年配の船乗りや船大工たちは大喜びで話に乗ってくれます。陸から背広でも着てやってきたのとはずいぶん違うように思います。

最近よく来ている三重県伊勢市の港湾地域、大湊、神社、竹の鼻などはずっと大昔から船造りで名高く、江戸時代から明治、大正にかけては全国でも指折りの帆船建造地でした。たとえば大湊市川造船所は北海道大学水産学科、明治の日本の水産をリードした教育機関ですが、その初代練習帆船「おしよる丸」、白瀬中尉の南極探検船「開南丸」をはじめ数々の立派な船を建造しています。この造船所と緊密な縁をもつ「大湊造船徒弟学校」が日本ではじめての造船中等学校で、しかもそれは伊勢工業高等学校造船科の前身なのです。ここの造船科の先生がたのご協力でご協力で今この地域のたくさんの資料の保管を学校で引き受けていただき、その整理や目録作りに努力しているところです。諸君の地域にもそんな資料が見つかることがきっとあると思います。実は須崎や木江など何箇所かの学校へはもうお邪魔しているのですが、また何か面白い話があったら教えてください。そして船に興味と愛着を持ち続ける人が君たちの中から一人でも多く生まれることを願っています。

# 本校における小型船舶の取り組みについて

高知県立須崎工業高等学校

造船科 三浦叙裕

## 1 はじめに

須崎工業高校には全国でも珍しい造船科がある。造船科ではこれまで長年にわたって小型船舶の研究に取り組んでこられ、数多くの実績を残している。そして本年度もまた様々な取り組みをしたわけであり、どのようなことをしたかを振り返りながら報告し、私の感じたことについて書いてみた。船舶についてまだまだ初心者であり、至らぬ点もあると思うがお許しいただきたい。

## 2 小型船舶の取り組みについて

### 2.1 小型船舶とは

船舶の定義は「海上又は水上に浮かび、人又は貨物を積載する能力を有し、自力で航行できる、海上又は水上の構造物」である。そしてその船舶は表1のように総トン数によって大きく4つに分けられる。小型船舶については海軍の習慣として排水量（排水トン数）500トン以上を艦、500トン未満を艇と呼んでおり、この500トンを境に総トン数を基準にして小さい船、つまり海軍で艇と呼んでいる船舶を小型船舶と呼ぶようになったようである。また小さい船舶のことを舟艇と呼んでいる。

表1 船舶の排水量による区分

区分	総トン数 (トン)
小型船	～ 499
中型船	500 ～ 4999
大型船	5000 ～ 100000
巨大船	100000 ～

### 2.2 なぜ小型船舶に取り組んだか

経済社会が急成長するにつれ、人々の海への興味関心が高まり、レジャー船も出現、普及していき、漁船数も増大していくことによって、転覆や衝突といった海難事故も増えてきた。現在、日本国内には約60～70万隻もの小型船舶が在籍しており、これら全船舶の燃料消費量は莫大な量となる。そのため燃料消費量の少ない経済的な船型を開発する必要があった。そして船も年々高速化が進み、それに対応する船型を確立する必要性もでてきた。また、小型船舶の中でも船の長さが23m以下の船舶は昔不等簿船と呼ばれ、一般の船舶に比べ法規的な基準が甘く、比較的簡単に建造が認められていた。この不等簿船は主に浜造船所と呼ばれる5～10人程度の造船所で建造されており、受注、設計、資材の調達、建造、書類の提出、引き渡しの全てを自前で行っているのが実状である。20ノット以下までの船ならば勸を頼りに何とか対応できていたが、経済、技術の発達に伴い、船も25～30ノットの速力が望まれるようになると、波に強い船型や水面下に起こる様々な影響を数量的に明確する高度な造船技術が必要となってきた。

そこで本校造船科ではこれらの問題を解消するために、よりよい船型を設計することで地場産業に微力ながらお手伝いしてきた。そして今までの研究によって小型船舶に関する数多くのデータとノウハウが蓄積されてきている。

また小型船舶は大型船に比べて馴染みやすく、全体像が掴みやすい手頃な教材であり、そして建造期間も短期間に完成させることができる。よって授業で学んだ知識を小型船舶の設計、建造、完成

という実践に結びつけていくことで船についての理解をさらに深めることができる。また、実用できる船を建造することで、地域への工業技術を生かした貢献ができ、より密接な関係を築くことができるわけである。

また小型船は大型船に比べて寸法や重量は小さいが船としての設計理論そのものは何ら変わることはない。自然界で海洋に発生する波は船の大小に関わりなく影響し、小型船といえども手加減はしてくれない。そうした波の中でも速度を落とさず、より良好な乗り心地の船を設計するには、大型船の設計よりむしろ小型船の設計の方が困難である。その点にいち早く着目し、造船科では長年にわたって地道な研究が続けられてきたようである。

## 2.4 本校の小型船舶建造に関する授業

小型船舶の建造を行う授業は1年の工業技術基礎、2,3年の実習、3年の課題研究の時間があり、それを表2に示す。工業技術基礎、実習についてはクラスを5班に分け、各パートを5週で交代しており、そのパートのひとつとして舟艇建造がある。授業以外では本校には文化部として造船部があり、放課後、休日を利用して舟艇建造に取り組んでいる。

表2 小型船舶建造に関する授業

学年	授業名	時間数(時間)	班数
1	工業技術基礎	3	5
2	実習	3	5
3	実習	3	5
3	課題研究	2	全員

## 3 平成11年度の舟艇建造実績

### 3.1 本年度の舟艇建造実績

本年度に本校造船科で設計または建造した船を次に挙げる。

- ・ドラゴンカヌー艇 6艇
- ・7m型のパワーボート 1艇
- ・6m型小型舟艇 2艇
- ・造船所からの設計依頼 4艇

これらについてそれぞれ順次説明していく。

### 3.2 ドラゴンカヌー

本校造船科では全部で9艇のドラゴンカヌーを建造した。艇体線図と配置図を図1、図2に示す。昨年の夏には引渡し式、そして第一回ドラゴンカヌー大会(写真1)が盛大に催され、本校と須崎市のPRに大活躍した。そして11月に大阪で開催された第7回工業科生徒研究発表全国コンクールで四国代表として造船部の生徒がドラゴンカヌーについて発表し、優秀賞を獲得することができた。今後ドラゴンカヌー大会を支援し、全国大会にま

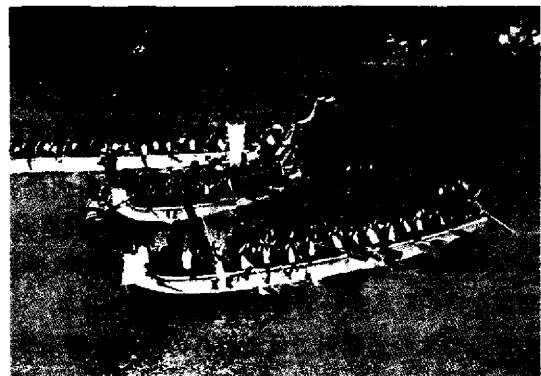


写真1 ドラゴンカヌー大会

でさらに発展するよう積極的に参加していきたいと思う。そうすることにより、須崎市の発展に微力ながらも協力し、地域から信頼される学校になるように努力したい。

### 3.3 6m型小型舟艇

この艇（写真2）は船外機付きの艇で、ちょっとそこまで貝を取りに行こう、小魚を釣りに行こうなどといった時に重宝がられる艇である。この艇は鳥根県で開催された第9回全国産業教育フェアと高知県産業教育フェアに展示したので、見て下さった方も多いと思う。

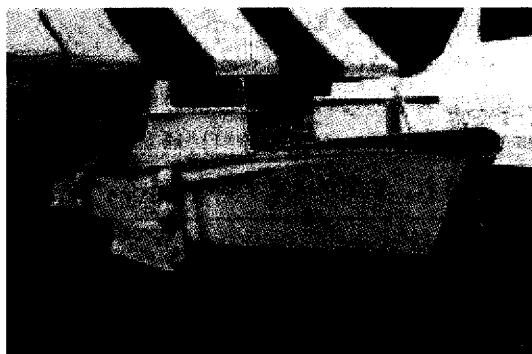


写真2 6m型小型舟艇

### 3.4 7m型パワーボート

この艇（写真3）は余暇などに用いられるプレジャーボートタイプの艇である。艇体線図、配置図を図3、図4に示す。この艇も高知県産業教育フェアに展示し、好評を得た。この艇はまもなく完成予定であるが、動揺、推進、旋回等運動性能を大いに期待している。完成の暁にはまたの機会に生徒を通して紹介したいと思う。



写真3 7m型パワーボート

### 3.5 21m型底引き網漁船

この船（写真4）は愛媛県にある造船所に依頼された船であり、配置図を図5に示す。船体線図から重心位置、浮心、浮面心、トリム（船首の喫水と船尾の喫水の差）等からバランスの取れた一般配置にした。



写真4 21m型底引き網漁船

### 3.6 16m型底引き網漁船

この漁船の船体線図を図6に示す。この漁船の一番の特徴はバルバスパウが付いていることである。バルバスパウは排水量型の船には当たり前のように付いているが、この大きさの漁船には少ない。しかし水線間長を長くすることで、 $V/\sqrt{L}$ の値が抵抗の谷となるように特別な配慮をした点の特徴である。



### 3.7 9.7m型釣船

この船の配置図は図7である。

また参考としての漁船の設計の検討に使用した図面を図8、図9に示す。このようにして船主や造船所と何回も繰り返し検討に検討を加え、条件に合致するようすり合わせが行われ、最終的な決断が下され、船型が決定するのである。

### 3.8 12m型一本釣り漁船

この船(写真5)は中土佐町の造船所に依頼され、船主の要望に合うように設計した。船体線図、配置図は図10、図11のようになっている。最初から船を設計するなどできないため、山崎先生に指導していただき、船型を決定し、造船所に何度も出向き、現図、型枠の作製等のお手伝いをさせてもらいながら携わってきただけに感動も大きく、貴重な体験だった。また船主から申し分なしという評価をいただき、これに勝る喜びはなかった。

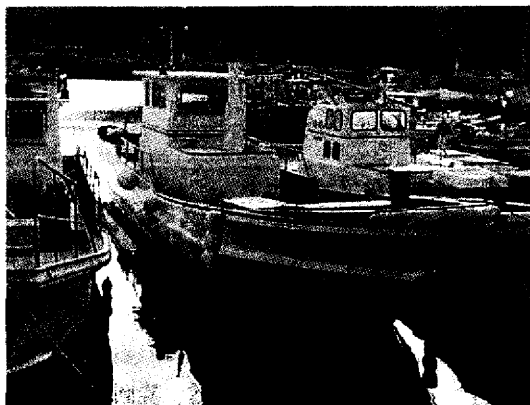


写真5 12m型一本釣り漁船

## 4 おわりに

大学では船舶関係の学科で勉強していたが、須崎工業高校で実際に船を造るにあたって、技術と経験、体験の大切さを実感し、知識だけではどうにもならないということがよくわかった。また、このことから良い技術者を育てるには設計から完成までの経過に生徒を参加させることによって学んだ技術、知識を実践に結び付けていき、そして磨いていくということが大切であるということがわかった。須崎工業高校造船科ではまさにそのような取り組みがされており、このことがこの学校にきて一番良かったと感じたことだった。そして造船科という名前だけでも十分に特色のある学科であるのに、その工業技術を生かし、地域や産業界へ貢献し、連携していることが、その名を広め、さらなる工業技術の向上や生徒の卒業後の進路、入学希望者の確保に結びついているのではないかと考えられる。

何も知らずに教育という世界に足を踏み込んだわけだが、教育の末端に携わり、本校の先生方や生徒達と様々なことに取り組む中で人を育てることの責任や重大さ、そして尊さを実感している。

開かれた学校づくりの取り組みとして認められたドラゴンカヌーや漁船などの設計、建造と様々なことを経験させていただき、大変感謝している。何かを企画し、設計から建造、そして活用するということがどれだけ大変で責任がかかってくるものかを知ることができた。今後これらの経験を様々な形として生かし、本校の取り組みを継承し、発展させられるよう頑張っていきたいと思う。

※図1～11は紙面の都合で省略させて頂きました。(事務局)

# 学 校 一 覧

校 名	〒	所 在 地	電 話	校 長 名	科 長 名
三重県立伊勢 工業高等学校	516- 0017	伊勢市神久 2丁目7番18号	(0596) 23-2234 FAX (0596) 23-2236	高北汎恒	市川 公
神戸市立神戸 工業高等学校	654- 0155	神戸市須磨区 西落合1丁目 1番5号	(078) 795-9407 FAX (078) 795-1451	飛谷直恒	楫野 進
高知県立須崎 工業高等学校	785- 8533	須崎市多ノ郷 和佐田甲4167-3	(0889) 42-1861 FAX (0889) 42-1715	橋本俊彦	宮畑 豊
広島県立大崎海星 高等学校 (旧広島県立木江) 工業高等学校	725- 0402	豊田郡木江町 大字沖浦1980-1	(08466) 2-0055 FAX (08466) 2-0715	澤山義久	連絡係 中村秀樹
山口県立下関中央 工業高等学校	751- 0826	下関市後田町 4丁目25番1号	(0832) 23-4117 FAX (0832) 23-4117	金子英機	宮崎明宏
長崎県立長崎 工業高等学校	852- 8052	長崎市岩屋町 41番22号	(095) 856-0115 FAX (095) 856-0117	坂井孝好	瀬戸口達志

### 三重県立伊勢工業高等学校

全日制							
学 科	造 船	機 械	建 築	電 気	工業化学	計	
定 員	120	240	120	240	120	840	
在 籍	1年	40 (1)	78	41 (6)	80	40 (1)	279 (8)
	2年	38	76	36 (16)	76 (3)	38 (4)	264 (23)
	3年	38	76	38 (10)	76 (4)	40 (2)	268 (16)
	計	116 (1)	230	115 (32)	232 (7)	118 (7)	811 (47)

( ) 内は女子の内数

### 神戸市立神戸工業高等学校

全日制						
学 科	交通工学	機 械		インテリア	計	
		機械技術 コース	情報機械 コース			
定 員	240	240	120	120	720	
在 籍	1年	80	80	41	40	241
	2年	79	80	36	39	234
	3年	71	73	38	39	221
	計	230	233	115	118	696

### 高知県立須崎工業高等学校

全日制						
学 科	造 船	機 械	化学工業	電 気	計	
定 員	120	120	120	120	480	
在 籍	1年	41	41	37 (3)	36	155 (3)
	2年	37	40	37 (1)	37	151 (1)
	3年	24	38	32	21	115
	計	102	119	106 (4)	94	421 (4)

( ) 内は女子の内数

### 山口県立下関中央工業高等学校

全日制							
学 校	造 船	機 械	建 築	土 木	化学工業	計	
定 員	120	120	120	120	120	600	
在 籍	1年	(200名くくり入学)					201
	2年	35 (2)	42 (10)	39 (2)	39 (5)	41 (2)	196 (21)
	3年	38 (4)	41 (8)	38 (7)	36 (3)	38 (2)	191 (24)
	計	73 (6)	83 (18)	77 (9)	75 (8)	79 (4)	588

( ) 内は進学クラスの内数

### 広島県立大崎海星高等学校

全 日 制	学 校	定 員	在 籍			
			1年	2年	3年	計
	総合	320	48	50	73	171

### 長崎県立長崎工業高等学校

全 日 制										
学 科	造 船	機 械	電子機械	電 気	工業化学	建 築	インテリア	電子工学	情報技術	計
定 員	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1080
在 籍	1年	40 (1)	40	40 (1)	40	40 (3)	40 (27)	40 (1)	40 (8)	360 (44)
	2年	40	40	41	40	40 (1)	39 (2)	37 (25)	40 (1)	357 (35)
	3年	38	37	39 (1)	39	39 (7)	38 (4)	39 (25)	40 (2)	348 (49)
	計	118 (1)	117	120 (2)	119	119 (11)	117 (9)	116 (77)	120 (4)	119 (24)

( ) 内は女子の内数

## 全国工業高等学校造船教育研究会の歩み（抜粋）

年月日	事	項
昭和		
34. 6	中国五県工業教育研究集会の機械部会に造船分科会を特設し、全国的な集会とすることになる。	
34. 8.21 ～23	中国五県工業教育研究集会 於山口県立宇部工業高校・林兼造船クラブ 参加校13校 あっせん校 下関幡生工業高等学校（校長 岡本喜作・造船科長 高橋正治） ①全国工業高等学校造船教育研究会（仮称）の発足 ②昭和34年度会長 松井 弘（市立神戸工高長） 〃 当番校 市立神戸工業高等学校	
34.11. 3	全国工業高等学校造船教育研究会発足 加盟校 17校	
35. 3.31	第1回総会 於神戸市垂水 教育研修場臨海荘	
35. 8. 7	第3回総会 於熱海市来の宮 日本鋼管寮	
36. 8. 7	第2回総会 於広島県大崎高等学校	
37. 8. 6	第4回総会 於伊勢市内宮如雪苑 鳥羽市観光センター	
38. 7.20	会誌第1号発行	
38. 7.26 ～29	役員会（別府市 紫雲荘） 第5回総会・協議会・研究会（於別府市 紫雲荘 当番校佐伯高校）	
39. 8.20	第6回総会・協議会・研究会（徳島市眉山荘）	
40. 8. 2	第7回総会・協議会・研究会（釜石海人会館）	
40. 8. 3 ～9	高等学校教員実技講習会（三菱重工業横浜造船所）	
41. 7.28	第8回総会 高知県立須崎工業高校	
41. 8. 1	高等学校造船科教員実技講習会開催（テーマ）溶接実技・造船工作 主催 全国工業高等学校長協会・本会 後援 文部省・石川島播磨重工業株式会社 場所 石川島播磨重工業(株)相生工場	
42. 4	「船舶工作」海文堂より出版（2,000部） 「船舶設計」プリント各校に配布（徳島東工業高校）	
42. 7.25	会誌3号発行	
42. 7.26	役員会（19:00～20:00）高知市鷹匠荘	
42. 7.27	第9回総会 高知電気ビル	
42. 8. 1 ～5	高等学校教員実技講習（文部省主催） 三井造船(株)玉野造船所	
43. 6.10	「船舶工作」再版2,000部印刷	
43. 7.25	会誌第4号発行（200部）	
43. 7.30	第10回総会並びに研究協議会 於ホテルアカシヤ	
43. 8. 5 ～10	高等学校産業教育実技講習（文部省主催）日本鋼管(株)鶴見造船所 「船舶工作および生産設計計画についてのテーマ実習・研究」	
44. 4.15	「造船実習指導票」共同印刷「造船実習書」としてタイプオフセット印刷完了	

- し各校に配布 (375冊)  
44. 3.末 「商船設計」出版 (初版2,000部印刷)

( 中 略 )

平成

6. 7.27 第35回総会並びに研究協議会  
於プラザ洞津・三重県立伊勢工業高等学校  
事務局、須崎工業より長崎工業に移る。
6. 7.28 実技講習会「最近の溶接技術について (講演)」 「最近の技術動向について (講演)」 CO<sub>2</sub>溶接実技 於NKK津製作所  
～29
7. 1.20 役員会  
～21 於山口県下関市「源平荘」
7. 7.24 第36回総会並びに研究協議会  
～26 於「源平荘」・山口県立下関中央工業高等学校  
実技講習会「最近の船体構造検査について (講演)」
8. 1.25 役員会  
～26 於広島市「東方2001」
8. 7.29 第37回総会並びに研究協議会  
～30 於広島市「東方2001」・広島県立木江工業高等学校  
事務局 長崎工業高校より下関中央工業高校に移る。
8. 8.20 実技講習会「船体模型作製と抵抗試験」  
～23 於新来島どっく
9. 1.17 役員会  
～18 於広島市「せとうち苑」 「広島県立生涯学習センター」
9. 8. 4 第38回総会並びに研究協議会  
～6 於神戸市「舞子ピラ」神戸市立神戸工業高等学校  
実技講習会 (見学) 「明石船型研究所」
10. 1.19 役員会  
～20 於広島市「東方2001」
10. 8. 2 第39回総会並びに研究協議会  
～ 4 於「ロマン長崎会館」長崎県立長崎工業高等学校  
実技講習会「コンピュータグラフィクスを使った設計ソフトウェア」  
事務局 下関中央工業高校より伊勢工業高校に移る。
11. 2.11 役員会  
～12 於広島市「東方2001」
11. 7.28 第40回総会並びに研究協議会  
～30 実技講習会「船舶設計及び造船CAD」
12. 2.24 役員会  
～25 於広島市「東方2001」

# 全国工業高等学校造船教育研究会規約

1. 本会は、全国工業高等学校造船教育研究会（以下本会という）と称する。
2. 本会は、特に造船教育に関して資料の収集、作成並びに研究をなし、造船教育の充実振興を図ることを目的とする。
3. 本会の会員はつぎのとおりとする。
  - (1) 造船科並びにこれに類する学科等を設置する高等学校の校長・教頭及び関係教職員。
  - (2) 本会の趣旨に賛同し総会で認められたもの。
4. 本会は次の役員をおく。
  - (1) 会長 1名 (2) 副会長 若干名
  - (3) 理事（事務局）若干名（事務局長・理事） (4) 委員 若干名 (5) 監事 2名
5. 役員の仕事は次の通りとする。
  - (1) 会長 本会を代表し、会の運営にあたる。
  - (2) 会長を補佐し、会の運営にあたる。
  - (3) 理事 会長を補佐し、庶務・会計の事務にあたる。
  - (4) 委員 各学校間の連絡にあたり、会の活動運営をたすける。
  - (5) 監事 会計の監査にあたる。
6. 役員は総会において選出する。
7. 役員の仕事は、1年とし再任を妨げない。
8. 本会には若干の顧問をおく。
9. 本会は次の集会を行う。
  - (1) 総会 原則として毎年1回これを開く。
  - (2) 役員会 必要に応じて開く。
10. 本会の収入は、次による。
  - (1) 会費 年額 1校 15,000円
  - (2) 寄付金
  - (3) 雑収入
11. 本会の予算及び決算は、総会の承認を得るものとする。
12. 本会の年度は7月21日に始まり、翌年7月20日に終わる。
13. 本会の規約の変更は、総会の決議による。

(改正) 昭和34年11月3日発会当時の規約を、昭和35年3月30日、昭和40年8月4日、昭和41年7月28日、昭和42年7月27日、昭和47年7月27日、昭和50年7月30日、昭和51年7月28日、昭和55年7月26日、昭和56年7月23日、昭和60年8月2日、平成3年7月30日、平成9年8月5日、平成11年7月29日上記の通り変更せるものである。

附 則 本規約は平成11年7月29日より施行する。

# 全国工業高等学校造船教育研究会会長賞についての表彰規定

## 1 趣 旨

全国工業高等学校造船教育研究会に加盟している学校に在籍する生徒を対象に在学中の物作りに対する設計・製作・研究などの成果を顕彰し、工業教育の目標である物作りを奨励するとともに、造船教育の振興に寄与する。

## 2 規 定

- (1) 設計活動・製作活動・研究活動が顕著であり、かつ人物・出席状況などを総合的に考慮して、当該校長が推薦した生徒を対象とする。
- (2) 当該校当該科における個人2名以内とする。
- (3) 卒業時に表彰状並びに副賞を授与する。

(附則)

平成6年2月7日決定

平成9年1月18日改正

## 平成12年度役員

会 長	高北 汎恒 (三重県立伊勢工業高等学校校長)
事 務 局	三重県立伊勢工業高等学校
事務局長	景山 裕二 (三重県立伊勢工業高等学校)
理 事	三重県立伊勢工業高等学校 造船科教員
委 員	高知県立須崎工業高等学校 神戸市立神戸工業高等学校 長崎県立長崎工業高等学校
監 事	山口県立下関中央工業高等学校 広島県立大崎海星高等学校

## 造船関係企業紹介

今治造船株式会社丸亀事業本部

株式会社サノヤス・ヒシノ明昌

幸陽船渠株式会社

株式会社カナサシ

株式会社神田造船所

株式会社ジャパンテクノメイト

株式会社新来島どっく

株式会社大島造船所

株式会社ナカタ・マックコーポレーション

武中物産株式会社

長崎船舶コンサルタント株式会社

長崎船舶装備株式会社

ニュージャパンマリン株式会社

長崎総合科学大学

海文堂出版株式会社



# 今治造船株式會社

本社・今治工場 〒799-2195愛媛県今治市小浦町1丁目4番52号 TEL0898-36-5000  
丸亀事業本部 〒763-8511香川県丸亀市昭和町30番地 TEL0877-25-5000  
西条工場 〒793-8515愛媛県西条市ひうち7番6号 TEL0897-53-5000  
ホームページ <http://www.imazo.co.jp> メール [jinji@imazo.co.jp](mailto:jinji@imazo.co.jp)

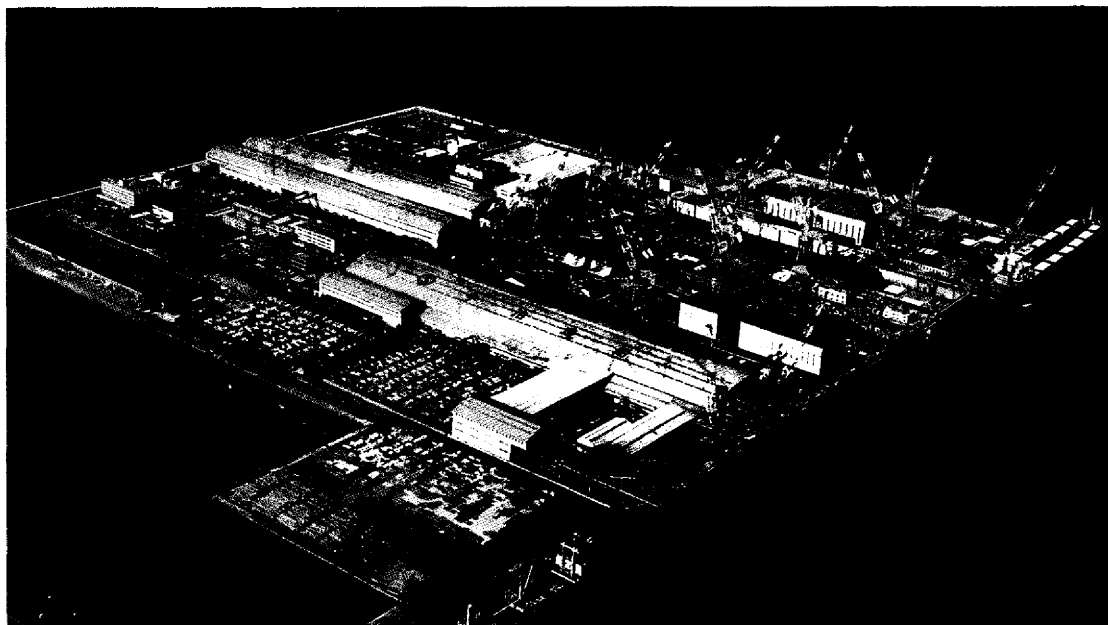
## 会社概要

当社は、古くから瀬戸内海上輸送の要衝であった来島海峡に面した愛媛県今治市を発祥の地とし、設立以来半世紀を超える歴史を有しています。その間、技術革新、品質向上に絶え間なく取り組み、多種多様な船舶を建造、世界の海に送り出し国内はもとより海外の船主からも高い評価を得ています。又、1,000隻を超える建造実績と、1,000億円以上の売り上げ実績で、造船専門メーカーとして確固たる地位を築いています。平成10年度では今治造船グループの建造実績が国内1位となり、また、常に世界においても1割前後の建造シェアを保っています。

工場としては、今治工場でフェリー、冷凍船等の特殊船関係、瀬戸大橋を臨む丸亀市には当

社の設計・情報・製造の拠点として丸亀事業本部を有し、10万トンまでのタンカー、コンテナ、バラ積み船、自動車専用運搬船などの大型船舶を建造し、船主の多種多様なニーズに対応しています。さらに、平成7年4月には、愛媛県西条市の59万㎡の広大な敷地に、最先端、最新鋭の技術、設備を導入した西条工場を建設、高品位のブロックを建造、グループ各工場に供給しています。さらに、西条工場では21世紀に向け50万トンクラスの建造が可能な大型ドックがさる3月24日落成しました。設備では日本最大を誇る800tゴライアスクレーン2基等最新鋭の設備をそろえています。本年、21世紀に向け造船専門メーカーとして新たな第一歩を歩み始めました。

当社は、より速く大量に効率のよい安全な海上輸送を目指し、船舶の可能性を追求しています。



丸亀事業本部



谷 脇 隆 憲 (1999年入社)

丸亀事業本部工作グループ  
、塗装チーム

高知県立須崎工業高校 造船科

私が今治造船に入社して1年が過ぎましたが、すごく短かったように感じます。4月に入社し、9月まで研修や現場実習をしていき、社会人としての常識や知識を学んだり、溶接やガス切断などの実習もしました。

そして10月には塗装チームに配属され、主にブロックの塗装前の表面処理の検査をしています。今はまだ仕事を憶えていく段階で、自分の中でやっていく仕事のほとんどが新しいことなので毎日勉強の日々です。

上司や先輩方に仕事を安心して任せてもらえるように、これからも一生懸命頑張っていきたいと思います。

#### 〈会社PR〉

本社・今治工場のある今治市は、昨年5月に開通した瀬戸内しまなみ海道の四国側の拠点で、観光だけでなく、中国・四国のアクセスの拠点

としてさらなる発展が予想されています。工場そばの糸山公園からはしまなみ海道と共に瀬戸内海国立公園の来島海峡や瀬戸内の多島美が見渡せます。

丸亀事業本部のある丸亀市は、瀬戸大橋（児島・坂出ルート）に隣接し、阪神、中国の物流の入り口として発展してきております。近くには、海の神様としてまた商売の神様として古くから有名な金比羅宮や、ゴールドタワーなどがあり、また、JRで瀬戸大橋を渡れば、チボリ公園や倉敷美観地区など観光地が多く、休日には観光客でにぎわっています。その中であって丸亀市は城下町らしい静かな趣を残した町で、生活環境はすばらしいものがあります。

福利厚生面では、社宅と全館冷暖房完備の独身寮を格安な入居料で社員に提供しています。5月にはソフトボール大会、10月には運動会等を催し、家族ぐるみで楽しめるイベントを開催しています。また、5月と8月には今治のおんまく踊りや丸亀祭りの総おどりに参加し、地域との交流も図っています。

クラブ活動も盛んで野球・ソフトボールは地域の大会に参加して好成績をあげているほか、ゴルフ、スキー、テニス、マリンスポーツ、釣り等の気のあった仲間同士で和気あいあいと楽しんでいます。



西条工場

# 株式会社 サノヤス・ヒシノ明昌

本 社 〒530-6591 大阪市北区中之島三丁目 6 番32号

TEL 06-4803-6161

FAX 06-4803-6160

水島製造所 〒711-8588 倉敷市児島塩生2767番地21

TEL 086-475-1551

FAX 086-475-0523

ホームページアドレス

<http://www.sanoyas.co.jp>

当社は、造船会社として明治44年創業以来86年  
余りに亘り、船舶、陸上機械、鉄構、プラント、  
建設機械、各種遊園機器など幅広く製造販売して  
おります。

船舶部門は、技術的水準、建造実績とも世界の  
トップを誇る造船国日本の一躍を担い、設計から  
建造まで客先の船舶ニーズと信頼にえています。  
特に水島製造所(倉敷市)に於いては292000m<sup>2</sup>  
の敷地に30万トン建造ドックを有し、今後ますます  
多様化する船種、船型をはじめ今日の社会的要  
求である省エネルギー船に対処するべく、技術の  
改善、研究開発に努め、近代的優秀な船舶の建造  
とともに建造システムの向上をも推進してありま  
す。現在は7万トンのパナマックスおよび5万ト

ンのバラ積み貨物船建造をしており、その後もハ  
ンディーBC、タンカー、パナマックス等の大型  
船の建造を控え活況を呈しております。

陸機部門は産業機械、橋梁、タンク類の各種大  
型鉄鋼構造物を始め、独自の機械式立体駐車場装  
置や海洋構造物に至るまで、その高品質に国内外  
から高い評価を得ています。建設機械部門は工事  
用エレベーター、クレーン、リフトなど建設業界  
の省力化と能率化ニーズに即応した製品を提供し  
ています。

遊園機器部門は、豊富な経験と技術開発力をフル  
に活し、レジャーの多様化に対応したスリリン  
グでエキサイティングな遊園施設の開発を行って  
います。



21世紀に取り組むサノヤス・ヒシノ明昌のシンボルとして  
大きな期待を寄せられている水島製造所



岩永直樹 (2000年入社)

、 工作部内業課鉄構

山口県立下関中央工業高等学校 造船科

サノヤス・ヒシノ明昌に入社してここでの生活にも大分慣れてきました。入社してから一ヶ月間は研修の毎日で、最初の一週間が自分には、かなり辛かったです。その最初の一週間の研修内容は、社会人としての常識や知識を学び、そして、会社の歴史などの講話を聞いたりして、一日中椅子に座っていることが多く、キツイと思いました。その後、二次研修で技能訓練の教育を受けました。技能教育ではガス切断、アーク溶接、CO2溶接の基本を学びました。二次研修も無事に終わり、私は、橋を作っている鉄構という部署へ配属されました。私は造船科出身だったので、橋の事はよく分かりませんが、上司や先輩の言うことをよく聞いて頑張っていくと思っています。私生活の方では寮の部屋も広くとても快適です。また休日にはドライブをしたり、釣りをしたりして楽しんでいます。最後に後輩の皆さん、サノヤス・ヒシノ明昌の人達は親切で優しい先輩が多く、とても良い会社なので是非来て下さい。



永野順平 (2000年入社)

工作部外業課取付

高知県立須崎工業高等学校 造船科

私は、高知県の須崎工業高等学校を卒業して、サノヤス・ヒシノ明昌に入社しました。配属され、初めて職場へ出た時は、不安で一杯でしたが、だんだん雰囲気にもなれて、今では不安も無くなってきました。今は、外業課取付という職場で鉄工の仕事をしています。今の私の仕事は、重量物をクレーンで吊る時に使用する「つりピース」を切り離すことです。つりピースを切り離すのは、ガス切断によるわけですが、これがかかなり熱くて、厳しい仕事だと感じています。学生時代にガス切断の基礎を習っていましたが実際に仕事としてガス切断を行う事がいかに難しいかを知りました。これから夏が近づいてさらに暑くなりますが、私を支えてくれる良い先輩方がいるので、暑さにも耐えて夏を乗り越えていけると思っています。また早く仕事を覚えて会社の役に立てるように頑張っていくと思っています。

~~~~~ 鉄 構 鉄 構 ~~~~~

入社後、企業人としての一般教養を修得後、役3週間造船技能員として教育訓練を実施（合わせて約1ヶ月）し、各人の能力、適正を充分考慮のうえ、設計、溶接、ガス、仕上、鉄工、配管、動力等々の各職場に就いていただきます。

一人一人の小さな力が集結し、巨大な船や橋ができ上がった時の感慨を味わえる職場ばかりです。また、建設機械事業、パーキングシステム事業（機械式立体駐車装置）、レジャー事業（遊園地施設）等もあり、個人の希望や能力が発揮できる魅力ある職場が数多くあります。

もちろん快適に仕事をして頂くための福利厚生制度には力をいれています。年間を通じてのバス

ツアー、運動会、職場対抗のスポーツ大会など、社員相互のコミュニケーションを図れる催し物もたくさんあります。また、野球、テニス、卓球、バドミントン、ボウリング、サッカー、スキーなどの体育クラブ、囲碁、将棋等の文化クラブもあり余暇の充実を図れます。倉敷には従業員優待の割引制度もある豪華なりゾートホテル「倉敷シーサイドホテル」もあり、独身寮は260室全てがワンルームで快適な生活が送れます。その他財形貯蓄制度、社員持株制度、住宅融資制度、教育資金融資制度、育児・介護休業制度等も整っており、社員の将来の生活設計に力を注いでいますので、安心して仕事に打ち込んでいただけます。



# 幸陽船渠株式会社

〒729-2292 広島県三原市幸崎町能地544番地の13 TEL 0848-69-3303

FAX 0848-69-2400

URL <http://www.koyodockyard.co.jp/>

大海原を走る船、希望を満載した船、夢を抱く造船所、それが幸陽船渠の姿です。危険、きつい、汚いが造船所の代名詞とされていますが、決してそうではありません。造る喜び、即ち、感動、興奮満足感が味わえるのです。船は何千という数の人たちの手によって造られる構造物の中で最も巨大な物であり、完成した時の喜びは実際に携わった人のみが知る事の出来るものです。

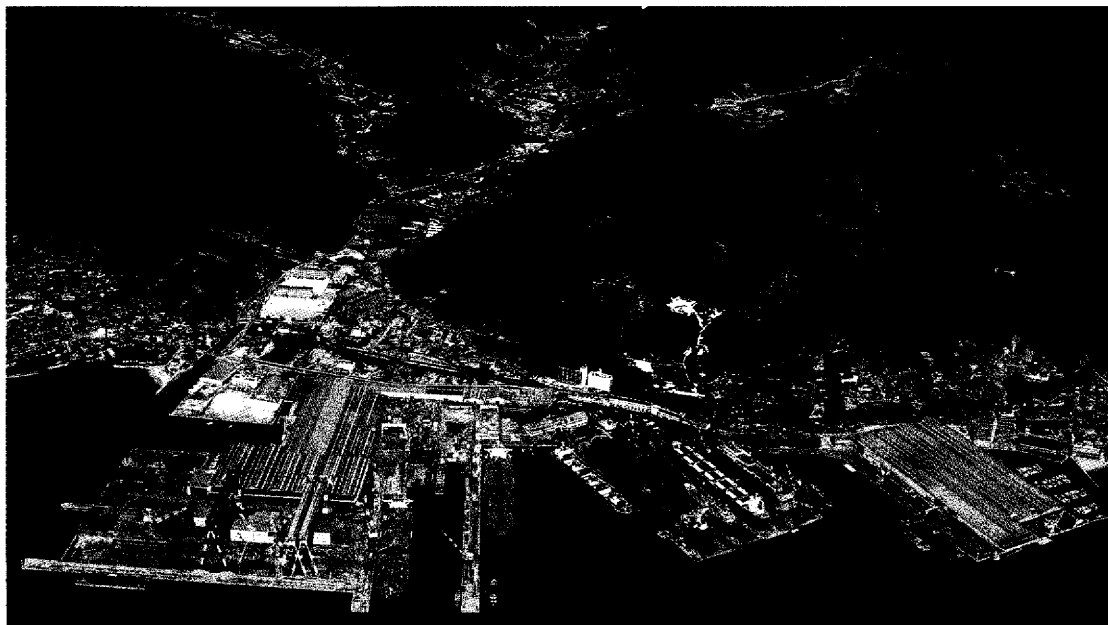
船舶の建造は客先との契約から始まり、数限らない段階を踏んで初めて船となります。

私達の会社は、世界であまり類を見ない大規模なドック6基を完備し、多様化するニーズにこたえています。また、造船専門ヤードとして設計から引き渡しまでをトータルにこなすため超近代化設備の必要性を認識し、これまでも、自動溶接などの最新鋭設備を積極的に取り入れてきました。

近年ウォーターフロント開発が活発となり、造

船所に求められるアイデアと技術は、より高度になっています。こういった時代背景を踏まえ、平成2年から、さらに意欲的に設備の近代化を推進しています。

まず、同年に導入した2基の新ラインウェルダ。愛称を「プラ」、「プル」といいます。5本ロング加工の装置化を世界で初めて可能にした画期的なラインウェルダで、溶接速度をセンチからメートルの世界に実現。業界で注目的となりました。その後も、NCY開先切断機、FCB、NC型鋼切断機、SWL、管一品NC装置等をメーカーと共同開発し、さらに平成7年には、幸陽船渠のシンボルである200トン吊りゴライアスクレーン2基に加え国内最大級の800トン吊りゴライアスクレーン1基を導入し、搭載ブロックの大型化により、大幅な工数削減に努めています。





梅本英明 (2000年入社)

社員研修中

山口県立下関中央工業高等学校 造船科

この春から社会人の仲間入りをして約2カ月経ちました。いままで学校で習った事とはかなり違って、すべてが新鮮で、日々勉強になります。

まだまだ覚えなないといけない事がたくさんあって大変です。今は新入社員研修中で、現場実習をしています。いろいろな所をまわっていくうちに職場の雰囲気にも慣れてきました。一日でも早く仕事を覚えて一人前になれるように頑張っていきたいです。



石渡健太郎 (2000年入社)

社員研修中

長崎県立長崎工業高等学校 造船科

入社して2カ月が経ち、工場環境にもだいぶ慣れてきました。

最初は言葉、方言が違い、なにを言っているのかわからなくて困ったこともありました。

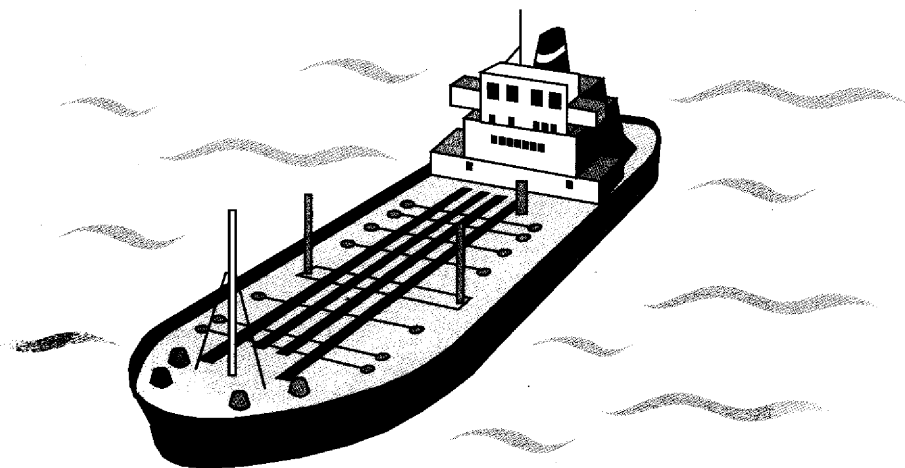
でも、今では友達も出来、仕事も楽しくて、とても充実した毎日をおくっています。早く仕事を覚えて一人前になれるよう頑張っていきたいと思います。



潮の香りが、潮騒が、ここが私達の独身寮です。全室個室、冷暖房完備の部屋からは、ヨートハーバー、瀬戸の海、そんな素晴らしい景色を眺めることができるのです。夜ともなれば、静けさの中に波の打ち寄せる音だけが当たり一面に響きます。都会もいけれど疲れた体を休めるためには静かな所が一番です。自然を間近にした生活は、本当の意味でプライベートな時間と言えるでしょう。

幸陽船渠はそんな所にありながら、交通の要所三原まで電車で11分、新広島空港まで1時間以内の距離にあります。

また、120世帯収容の12階建て社宅、夜間照明付き総合グラウンド・テニスコート、体育館、マリナーナ、来客用恵幸ハウス、各種セレモニー用迎賓館等を完備し、快適な生活をお約束します。



世界へ未来へ

# K 株式会社カナサシ

〒441-8577 愛知県豊橋市明海町22

TEL 0532-25-4111(代)

FAX 0532-25-4117

1903年創業の株式会社カナサシは日本の鮪、鯉漁船メーカーとしてゆるぎない実績を持ち現在に至っております。1974年には大型建造ドックを有する豊橋工場を開設し、漁船と大型船舶を両立させ、97年の歴史と伝統を育んできました。

豊橋工場は3万T以上の各種貨物船・タンカー・自動車運搬船・コンテナ船・冷凍運搬船・大型カーフェリーなどを開設以来170隻の船舶を建造しています。本年は品質管理に関する国際標準規格「ISO9001」を取得予定であり、「品質は企業の命」を全社員が理解し実行できるよう又生産性向上を目指し各種設備の改善向上に努め、より品質の良い船舶建造に取り組んでまいります。

また、福利厚生面においても独身寮、社宅を全面修理し給食設備、給食メニューの改善等より快適に生活出来る様に整備しました。

これからも世界中の顧客を満足させることのできる様な船作りに従業員一同頑張る挑戦してゆきます。

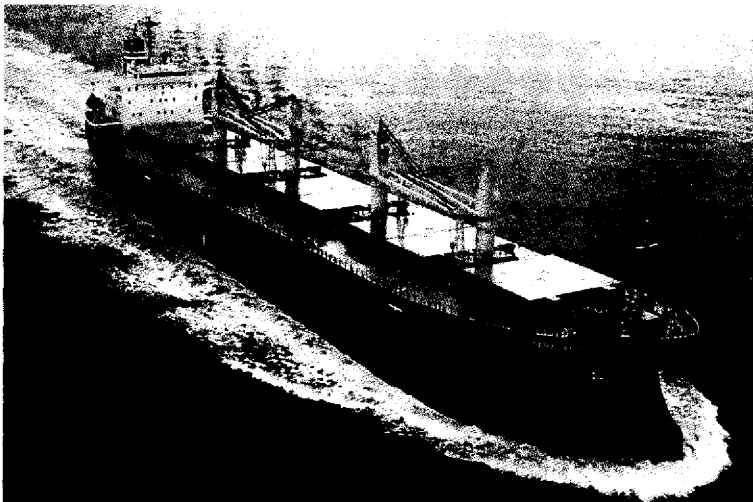


水落 玄 (2000年入社)

生産本部工作部搭載課  
搭載5組起重機2班

長崎県立長崎工業高校

入社後1カ月間の研修を経て、工作部搭載課起重機班で働いています。仕事は、色々な道具や機材・機装品を運んだり、ドック内で重要なブロックの搭載を行っています。特に2台の巨大な300Tゴライアスクレーンを併用して一つの大きなブロックを搭載する時は、より一層の緊張感が高まります。この緊張感の中での仕事はとてもやりがいがあります。僕も早くクレーン免許を取得し、この巨大なクレーンを操作できるようになりたいです。職場の上司や先輩の方々に色々とお教えていただきながら、1日も早く立派な造船マンになれるよう頑張っていきたいと思っています。



46,600トン型ばら積み船



# 株式会社 神田造船所

本社工場 〒729-2607 広島県豊田郡川尻町東二丁目14番21号 TEL 0823-87-3521(代表)  
FAX 0823-87-3803  
若葉工場 〒737-0832 広島県呉市若葉町1番地16号  
東京営業所 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町二丁目4番15号 千石ビル8階

私達技術集団は、21世紀に向けて、ハイレベルな造船技術の確保と、より高品質な船舶建造を継続させてゆくために、『省エネルギー及び低公害：産業廃棄物の低減等、地球の環境保全に関する“ISO”シリーズ』、及び『品質管理に関する国際標準規格』の、認証取得に対応するため、新たに総合的な技術管理システムの構築に挑戦します。

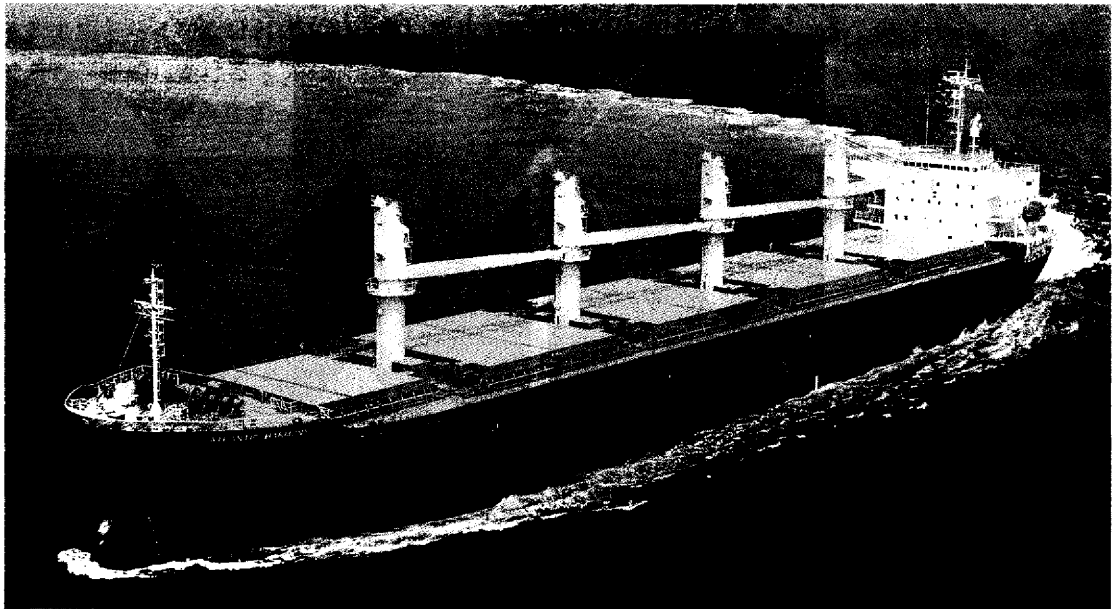
当社は1937年（昭和12年）操業を開始、以来62年間、鋼船の建造及び船舶の修理を専業として営み、そのコンセプトを、『堅実経営と意欲的な技術革新』に掲げ、日々研鑽と努力を重ねております。

地場企業ながら、永年培われてきた“職人”の熟練した技と、最新鋭のハイテク機器導入との相乗効果による、高度な総合技術力は、当社が最も得意とする大型フェリー等の、高性能特

殊船建造の大きな原動力となっています。

尚、独身寮の『若潮寮』を1997年3月、本社工場の隣接地に新築落成。鉄筋3階建15部屋全室個室で冷暖房完備。各室電話及びテレビ衛星放送受信用の端子を配線工事済みで、学習室や娯楽室もあり、健康で文化的な寮生活を楽しむ事ができます。

川尻本社工場は、JR呉線及び国道185号線沿いに位置し、町内の瀬戸内海国立公園“野呂山”（標高840m）からは、風光明媚な白砂青松の芸予諸島や四国連山を望むことができます。又、今春この芸予諸島を經由して、本州と四国を結ぶ『西瀬戸自動車道』が全線開通しました。この通称“瀬戸内しまなみ海道”の開通により、本州と四国地方との、より親密な交流が期待できます。



(船名) ATLANTIC HARMONY  
(船種) 載貨重量 32000トン型 撤積貨物船  
(竣工) 平成11年6月15日



株式会社  
**JTM** ジャパンテクノメイト

〒514-0302 三重県津市雲出伊倉津町14-1187 TEL 059-246-3095

<http://www.jtmcorp.co.jp/>

FAX 059-246-3366

当社は、NKK津研究所の研究開発の支援や研究設備の管理運営を行なうとともに、そこで培った技術を広く社会に役立て、お客様が技術開発や商品開発を進める際の良きパートナーになる事を目指し、昭和61年に津研究所の機能を一部分社化する形でNKKグループの一員として発足しました。

当社は、NKKエンジニアリング部門の研究開発の一翼を担っており、まさに研究開発型の会社です。

船舶性能部門では、一般商船、高速船、氷海船舶などの水槽試験・解析・船型開発コンサルタント、船舶や大型構造物の振動計測、強度破壊試験・解析、疲労試験・解析などの技術分野を担っています。

生産技術部門では、自動溶接機や自動超音波探

傷装置など造船の生産性向上に貢献する省力化機器の設計・製作や腐食・磨耗・割れなどの損傷解析、非破壊検査、防食性能評価、保守診断などのエンジニアリングを担っています。

当社は、独自商品の開発にも積極的に取り組んでおります。例えば、船舶の振動を軽減する「動吸振器」、船舶の省エネ装置「サーフバルブ」、パラフィン製FRP製品成形用型、ベトナムに建設した「風力発電装置」、'00年国際ウェルディングショーに出展した「マス目溶接ロボット」「狭開先自動溶接装置」、「画像表示超音波探傷器」などの商品を開発・販売しております。

当社は、お客様の技術開発・新商品開発への技術協力にも積極的に取り組んでおり、お客様のニーズに合った機器・装置も製作しております。



君の夢を熱くする



# 株式会社 新来島どっく

本社工場 〒799-2293 愛媛県越智郡大西町新町甲945

TEL 0898-36-5512  
FAX 0898-36-5599

“感動とロマン”、それは船を造り上げる者の  
みが味わえる喜びです。力を注いだ巨大な船が  
浮き上がり大なる海へ旅立つ時、図り知れな  
い快感が全身を包むのです。造船、それは夢の  
ある一大プロジェクトです。

90数年間にわたって各種の船舶を建造し続け  
ている当社は、その歴史の中でさまざまなノウ  
ハウを蓄積してきました。伝統に裏付けられた  
経験と開発へのたゆまぬ努力が躍進を続けるパ  
ワーの源となっています。

当社の大きな特長は、冷凍貨物船、自動車専用  
運搬船、ケミカルタンカーを始め特殊な貨物船  
からフェリー、巡視船に至る小型船から大型船  
まで、多彩な新造船を誕生させていることです。  
世界をリードしている日本の造船技術の中でも、  
多種多様な顧客ニーズに対応できる技術を有す  
る新来島どっくでなければという熱い期待が寄  
せられ、造船にかけるスタッフの自由でいきい  
きとしたパワーがみなぎっています。



渡邊 秀平 (2000年入社)

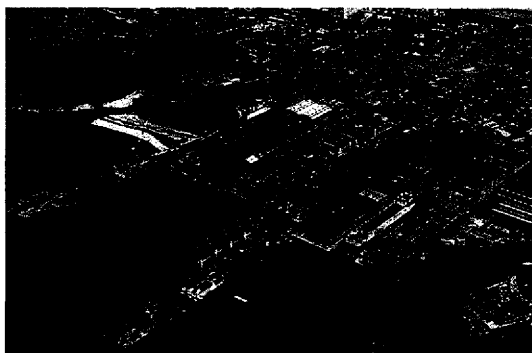
船舶造修本部  
大西工場外業係仮配属中

山口県立下関中央工業高等学校 造船科

この春から入社して、早くも2ヶ月がたちました。  
配属された時は何もわからないので不安でしたが、  
上司や諸先輩方の親切な指導の下、少しずつです  
が仕事を覚えはじめました。まだ不慣れなので、1日  
働くとかかなり身体はつかれますが、新しいことばか  
りなので楽しい気持ちもあります。

私の職場である外業係は、ドックのなかに船体ブ  
ロックを組あげて1隻の船にしていくところです。  
ドックの両端に設置されたクレーンで巨大なブロッ  
クを吊り上げドックに搭載していく光景は、初めて  
みたときはかなり驚きました。今はその光景にも慣  
れましたが、船を建造しているということが実感で  
き非常にやりがいのある職場であると思います。

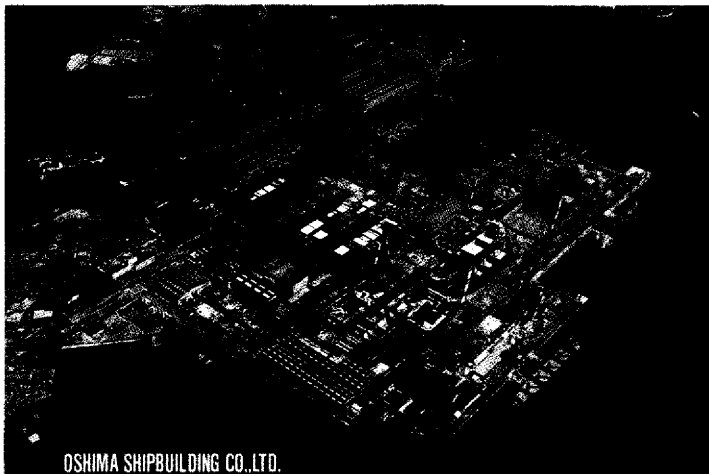
これからは、早く一人前になるよう頑張ってい  
きたいと思います。



地域社会と世界を結ぶ

# 株式会社 大島造船所

本店・工場 〒857-2494 長崎県西彼杵郡大島町1605-1 TEL 0959-34-2711(大代表)  
FAX 0959-34-3006  
(事務所) 東京・大阪・福岡・長崎・佐世保・上海



OSHIMA SHIPBUILDING CO.,LTD.

# 株式会社 ナカタ・マックコーポレーション

## 塗装技術の歴史を塗りかえた(株)ナカタ・マックコーポレーション

「地球の錆を追放」を合言葉に研究開発に力を注ぎ60年。  
世界の海運界の発展に貢献してきました。

社名 (株)ナカタ・マックコーポレーション  
創業 昭和7年  
社長 中田 貞雄  
資本金 4億5,000万円  
従業員数 400名  
本社所在地 〒722-0012 広島県尾道市潮見町6-11  
関連会社 三陸産業(株)  
中田不動産株式会社  
株式会社美粧堂  
コーリアマリンスペシャルコーティングCO.  
SINGAPORE NAKATA PTE.LTD.  
NAKATA MARITIME CORPORATION  
リーワード ナビゲーション S.A.  
備後観光開発株式会社  
取引銀行 広島銀行、愛媛銀行、中国銀行、  
日本興業銀行

### 営業品目

- (1) 船舶陸上設備の特殊塗装工事
- (2) 船舶の建造および修繕工事
- (3) 船舶用ハッチカバー及びRO/RO装置の設計、製造、販売
- (4) 船舶陸上設備の製缶工事
- (5) 船舶の保有、運航および貸渡業

## 企業は「ひと」で動いています。

戦後、わが国の造船工業はめざましい発展をとげ、世界の海運界の発展に貢献してきました。このなかにあつて中田組は昭和7年創業以来60年を迎えようとしております。その間、研究、開発に力を注ぎ、今や「特殊塗装のリーディングカンパニー」「世界のナカタ」としての名を揺るぎないものにいたしました。

一方、企業は常に進歩し、永遠に存続するものでなければなりません。我が社は経営の拡大をはかるため、常に本業以外の新しい分野への進出を続けております。

一つには、数年来より船舶運航業を開始し、現在、20隻、100万トンの船舶を保有し運航するまでに至りました。

二つには、ホテル料飲事業部を新設し、別府市内にホテル及びイタリアンレストラン、尾道市内に高級中華レストランを経営し、更にこの事業を拡大する計画です。

三つには、長崎工場を利用し、一層の飛躍をはかるため、中田グループの技術力を結集し、時代に即した新製品の開発を計画してお

ります。

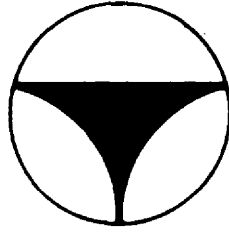
我が社の関連会社は、シンガポール、中国及び韓国に設立した合弁会社、ハッチカバーメーカー、不動産、ゴルフ場などを経営している会社等16社をかぞえ、世界に飛躍する中田グループを形成しております。

近い将来株式を上場する計画も着々と進んでおります。企業は「ひと」で動いています。「やる気のある人、やる人」には十分報いたいと思います。

その一例として、我が社の管理職には、斬新な年俸制を実施し、その人の能力、業績を正しく評価し、年俸に反映させております。

一方、従業員は「三隆会」の会員として、会社と会員とが相互信頼の精神をもって事業を進展させ、会員の福祉増進に努めるシステムになっております。

社員の努力が認められる魅力ある会社、限らない未来の可能性を考える会社にするよう常に考え前進しております。



# 武中物産株式会社

TAKENAKA BUSSAN CO.,LTD.

本社 〒850-0004 長崎市下西山町13-20 TEL 095-823-2505  
販売管理部 〒852-8144 長崎市女の都1丁目1533-3 TEL 095-847-1174  
FAX 095-847-1181

# NMC 長崎船舶コンサルタント株式会社

〒850-0952 長崎市戸町4丁目1番18号 TEL 095-878-9215  
FAX 095-878-9203  
E-mail:nmc@bronze.ocn.ne.jp

## 業務内容

- 各種船舶設計、監理
- 各種船舶申請手続、見積
- 各種海上施設設計、監理
- クレーン設計、監理
- 建築設計、監理

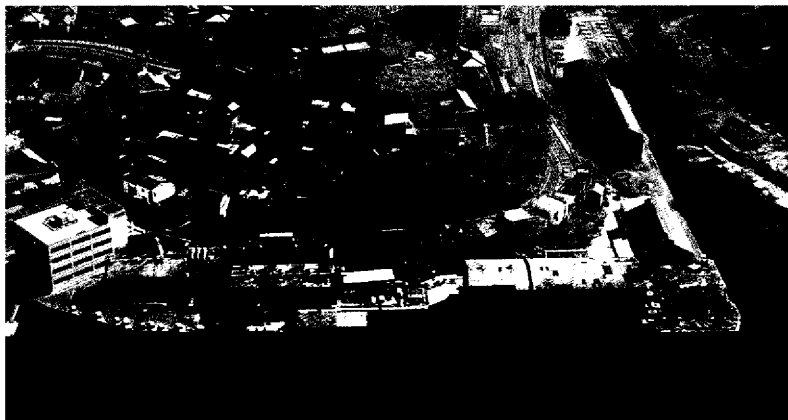
\*\*\*\*\*  
**NSS**

# 長崎船舶装備株式会社

本 社 〒850-0933 長崎市西琴平町1番5号 TEL 095-824-4411

FAX 095-823-2242

営 業 所 長崎・福岡・臼杵・下関・尾道・高松・大阪・東京



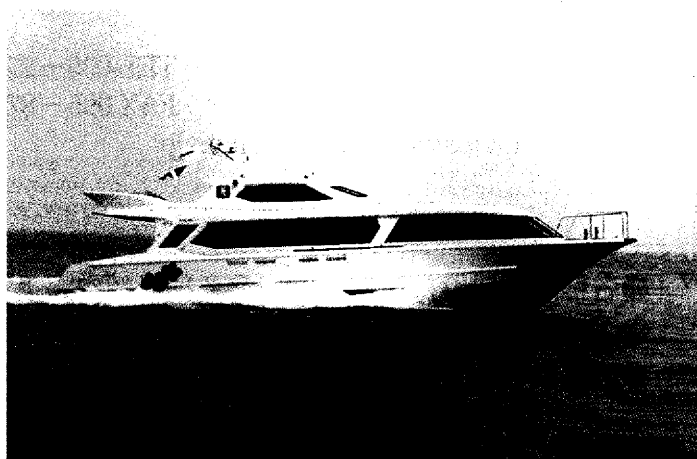
\*\*\*\*\*  
FRP製各種船舶の製造



## ニュージャパンマリン株式会社

〒515-0501 三重県伊勢市有滝町2259番地

TEL 0596-37-6000 FAX 0596-37-2278



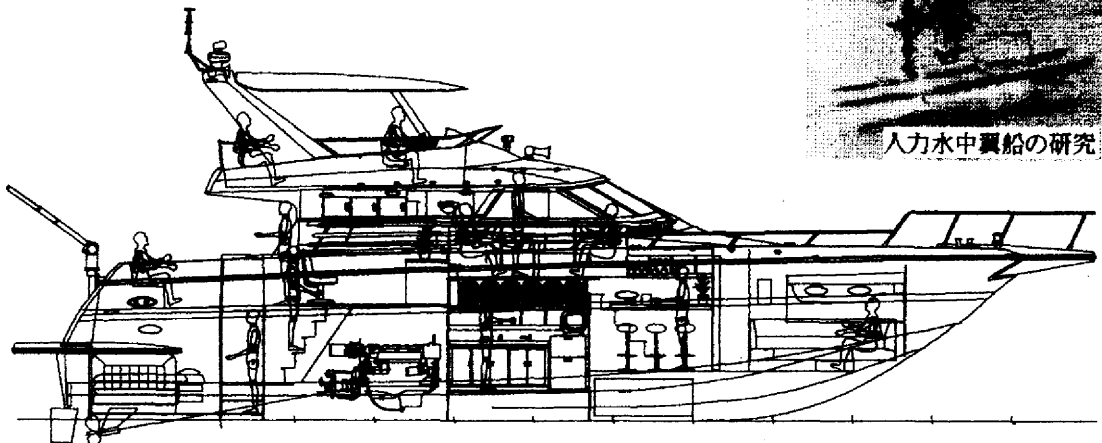
# NIS 海へのロマンは 長崎から

地球の表面の2/3を占める海。

生命の起源である海。

四方を海で囲まれた我が国は永遠に海とのかかわりあいを続けなければなりません。

その海を総合的に科学する本学は”夢をかたちに”を目指して創造性を重視した教育及び研究に挑戦しています。



## 長崎総合科学大学 船舶工学科

船舶海洋コース・システム情報コース

☎095-838-5158 FAX: 095-838-5158

E-mail: [ship@office.nias.ac.jp](mailto:ship@office.nias.ac.jp)

機械工学科、情報制御工学コース、電気電子情報工学科、建築学科  
住居学コース、経営システム工学科、大学院（工学研究科）

●お問い合わせ 入試・広報課 〒851-0193 長崎市網場町536

TEL 0120-801-253 FAX 095-839-0584

URL: <http://www.nias.ac.jp> / E-mail: [adm@office.nias.ac.jp](mailto:adm@office.nias.ac.jp)

# 海文堂出版株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道2丁目5番4号 TEL 03-3815-3292  
http://member.nifty.ne.jp/kaibundo/ FAX 03-3815-3953  
[価格は2000年5月現在(税別) / 解説付図書目録進呈]

## 造船工学

全国造船教育研究会 編  
B 5・330頁・6,000円

## 英和 海事用語辞典

神戸商船大学海事用語辞典編さん委員会 編  
ポケット・600頁・3,500円

## 商船設計

全国造船教育研究会 編  
A 5・170頁・1,400円

## 世界港間距離図表 (二訂版) WORLD-WIDE DISTANCE CHART

日本航海士会 編  
A 4・196頁・17,476円

## 造船設計便覧 (第4版)

関西造船協会 編  
A 5・1072頁・28,000円

## 航海便覧 (三訂版)

航海便覧編集委員会 編  
A 5・1172頁・19,417円

## 理論船舶工学

大串雅信 著  
(上巻) B 5・320頁・6,019円  
(中巻) B 5・276頁・6,000円  
(下巻) B 5・300頁・6,000円

## 図説 海事概要

一海と船のガイドブック一  
海事実務研究会 編  
A 5・250頁・2,200円

## 改訂 船体各部名称図

池田 勝 著  
B 5・170頁・3,500円

## 海事六法 (2000年版)

運輸省海上技術安全局船員部 監修  
A 5・1600頁・4,800円

## 高速艇の設計と製図

A 5・630頁・17,000円

## 小型船の設計と製図

A 5・530頁・15,000円

## 1994年海上人命安全条約

(正訳) (英和対訳)  
運輸省海上技術安全局 監修  
A 5・960頁・19,000円

## 小型船設計図集

B 5・130頁・5,000円  
池田 勝 著

## 海洋汚染防止条約

(97年改訂版) (英和対訳)  
運輸省運輸政策局環境・海洋課 監修  
A 5・560頁・14,000円

## 編集後記

IT革命。21世紀はITの時代だという。確かに情報通信技術の進展の凄さと威力は誰もが認め、その革新のスピードに驚嘆を覚えている。そんな一方で「じっくり腰を据える」とか「汗を流す」「男のロマン」とか、昔から愛し生き甲斐を感じてきた言葉がだんだん死んでいっているようで哀しい。

造船図面の整理のために野本先生が伊勢によく来られる。昔の資料をじっくりと調べ、色あせた図面から一造船技術者の生き様やロマンを感じてみえるのだろうと思うと羨ましさを感じる。情熱を持ち続け前向きに生きる、私もそんなふうに年齢を重ねたいと思う。

最後に、本会誌への原稿を快くおひきうけ頂いた野本先生に感謝するとともに、本会誌が多くの造船会社並びに関連企業のご協力により発刊できたことに感謝の意を表します。

事務局

## 会 誌 第 36 号

平成12年7月10日印刷発行

全国工業高等学校 高 北 汎 恒  
造船教育研究会会長

〒516-0017 三重県伊勢市神久2丁目7番18号

三重県立伊勢工業高等学校内

TEL 0596-23-2234

FAX 0596-23-2236

印刷 株式会社 アイブレーン

〒516-0017 伊勢市神久3-5-67

TEL 0596-27-1111

FAX 0596-23-0125

(非売品)